

和地ひとみレポート No.408



令和3年度 第3回東大和市議会定例会 一般質問 “学校教育について”

自発的な学びの充実のために ICTの活用を

■大きく変化している学校教育

…2020年度から始まった新しい学習指導要領は『変化が激しく、予測困難な時代においても、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、判断して行動でき、各自の思い描く幸せを実現する“生きる力”を育むこと』を目標とし改訂されたものです。この改訂では、小学校での外国語教育の導入や道徳の教科化等といったことだけでなく、これまでの“知識の注入”や“知識を覚える”といった受動的な学びから、主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）により「どのように学ぶか」という点も重視されることになりました。

…この学び方の変化の代表的なものとしては「プログラミング的思考＝自分の意図する一連の活動を実現するために、必要な動きを分解して考え、どのように組み合わせるとより効率的に意図した活動が実現できるのかを論理的に考えていく力」を身に付けるための『プログラミング教育』を各教科に盛り込むことや、IoT（Internet of Things：モノのインターネット：自動車や家電のような“モノ”自体をインターネットに繋げ、より便利に活用すること）や AI（Artificial Intelligence：人工知能）等の最新テクノロジーを活用する時代を生きる子ども達のために「個別最適化され、創造性を育む教育」を実現させる GIGA スクール＝生徒・児童 1人1台の端末（タブレットパソコンなど）の配置と高速通信環境の整備といったハード面での変化が挙げられます。

■コロナにより GIGA スクールが前倒しに しかし、すでに活用や内容に地域格差が

…2019年12月に文科省が打ち出した GIGA スクール構想は当初5カ年計画で進める予定でしたが、2020年のコロナ禍により学校が一斉休校となったことで、「学びを止めない未来の教室」の実現のために、2020年度内の実現に前倒しされました。

…東大和市においても端末整備と校内ネットワーク環境整備事業に9億6,461万7千円（うち市の財源は1,410万円のみで、他は国の補助金など）を投入し、今年度から GIGA スクールを導入。市議会でも複数の議員がその取組みについて一般質問等で取り上げていますが、子ども達の学びの充実には1人1台端末がどのように寄与しているのか、いまひとつ伝わってこず、不明な部分が多いことは否めない状況です。

…GIGA スクール構想が国の予算措置などにより前倒しで実現したことは良いことですが、これはハード面についてのみで、実際に大切な日々の教育面等での活用、すなわちソフト面に関しては、各市区町村に任されている状況。1学期が終了した時点で、すでに地域格差がある状況です。そこで、東大和市の小・中学校での GIGA スクールの活用実態などを把握するために今回は一般質問でこのテーマを取り上げました。

■東大和市独自の計画や構想は

…今回の一般質問にあたり、近隣他市の GIGA スクールの実態を把握するために、私は多摩26市の教育委員会の HP を確認してみました。

…改めて言うまでもなく、GIGA スクールというものを、保護者や教員だけでなく、すべての大人たちは経験したことがなく、その活用方法や効果については手探りの状況です。子ども達が端末を活用して学ぶことの効果を上げるには、保護者や大人たちの理解と協力は不可欠。26市の教育委員会の中には、HP や教育だより等に GIGA スクール専門のコーナーを作り、使用しているアプリ（例：パソコン内に入っている学習ドリル）等といった基本的な機能の情報や、具体的な活用例などを発信することで理解促進を進めているところや、その市独自の GIGA スクールの活用方法や期待する効果や目標などを盛り込んだ構想や、一定期間に到達すべき目標を掲げた計画などを作成して HP に掲載し進め方を公表している市も多くありました。

…東大和市においては、このような GIGA スクールについての専用コーナーも東大和市独自の構想や計画もない状況。この点を指摘したところ「今年度は試行期間として捉えている。学校の実態や今年度の取組を踏まえて、年度ごとの到達目標や教員の研修計画等についてまとめる予定だ。年次ごとの到達目標については、児童・生徒及び教員が身に付けるべき ICT 活用力について、3か年程度の目標を令和3年度中に示す予定で、現在、検討を進めている。」との答弁でした。

■学校、教員ごとにも格差が

…前述の通り、東大和市では今年度は試行期間としているとのことですが、1人1台端末は具体的にどのように活用がされているのでしょうか。現時点での状況について確認すると「学校では、インターネットを活用しての調べ学習や、視聴覚資料の提示、学習内容の共有化など、各教科の授業場面において、タブレット端末が活用されている。また、保護者会のオンライン開催や学校行事のオンライン配信、タブレット端末を活用した保護者アンケート等を行っている学校もある。」とのこと。

…一方で、課題については「全ての教員が ICT を効果的に活用できるようにすること」とのことで、「今年度については、先行して取り組む教員を核としつつ、学校としての組織的な取組を高めていくことを目標としている。」との答弁でした。これらの答弁から、学校や教員によって、活用方法には大きな差が出ることがわかり、東大和市内の学校間、もっと言えばクラスにより格差がすでに生まれている状況です。試行期間が終了した来年度からは、このような格差は子ども達の学びの充実の格差とも言えます。各学校に任せるだけでなく、教育委員会が東大和市としての
(裏面に続く)

基本的なレベルを示し、全学校、全教員がそのレベル以上で指導に活用できるよう、また、保護者との連絡や教員の事務の効率化にも活用できるようにすべきです。

■家庭学習等での活用は

…GIGA スクールの目的の1つの『個別最適化した学習』という中には、苦手なところに戻って何度でも復習が出来たり、先に進める場合は学年を超えて自ら学習を進めることができるという意味が含まれています。東大和市の端末にはこの個別最適化した学習を可能とするためのドリル的なものを導入しているのか確認したところ「当市では、リアテンドラントというドリルソフトを導入している。リアテンドラントは、小学校の主要4教科及び中学校の主要5教科のドリルを搭載しており、児童・生徒は、現在の学年だけでなく、学年をさかのぼって学習することも可能となっている。また、児童・生徒の学習履歴を、教員が管理することも可能だ。」とのこと。

…このリアテンドラントというドリルソフトは、学習履歴から「間違えばなしの問題」や「間違えたことのある問題」が一覧で表示され復習に活用出来たり、中学校の数学・英語では、AIが個々の苦手な学習要素を分析し、自動で最適な問題を出題する機能もある優れたもの。家庭学習にはもってこいのコンテンツです。ぜひ、夏休み等の長期休みには活用してほしいところですが、実は、私のところには「夏休み中、端末で遊んでばかりで困る」、「自宅に端末を持ち帰ってきているが、まったく使わない。意味はあるのか」といった保護者の声が複数届いています。夏休みのドリルソフトの活用状況について確認すると「市内の小学校の59%の学級が推奨を含め、夏休みの宿題としてドリルアプリを使用した」が、中学校では実施していない。一方、自由研究などでタブレット端末の活用を推奨した学級の割合は、小学校が100%、中学校が80%。オリンピック・パラリンピックや将来の職業や偉人の伝記など、児童・生徒自身が設定した課題について、タブレット端末を活用して調べ、写真等を交えたレポート等に電子データでまとめたり、プレゼンテーション資料を作成したりする取組を行ったと聞いている。」との答弁でした。

…自由研究などに活用されていけば私のところに届いた保護者の疑問などは起こらないはず。この点についても学校や教員ごとに指導や伝え方にも格差があるのではないかと推測できます。また、東大和市が導入しているドリルソフトも無料ではありません。東大和市の子ども達の学習を充実させるためにせっかく搭載したものを、活用しないのはもったいないことです。このドリルアプリについても、市内の学校全体で活用方法を統一していないとのことですが、活用の推奨とともに、良い活用例などを市の教育委員会が全校に提示する等、市全体をリードすることも必要だと思います。

■保護者の理解が重要

…前述のとおり、すべての大人は1人1台端末の学校教育は未経験。よって、多くの保護者が、タブレット端末の仕様に不安や疑問を持っているのが実情です。特に、家庭での活用方法については、インターネットが使える環境で、学習だけではなく遊びに使用するのはという懸念をもっている保護者も多い状況。文部科学省も家庭での保護者との話し合いにより、使用ルールを作ったうえで、端末を使用させることを推奨しています。

…多摩26市の導入時の取組を確認すると、市の教育委員会で複数回、保護者向けの説明会を開催している市もあり、中には、新型コロナの影響により、説明会をインターネットでの動画配信で実施し、メールなどで質問を受け付けている市も。さらには、集まった保護者の質問と回答をすべて教育委員会のHPに掲載するとともに、家庭用、児童・生徒用の活用マニュアルを作成する等、多くの市が保護者の理解促進の取組を実施していました。東大和市では保護者の理解促進のためにどのような取組を行ったかについて確認すると『東大和市児童・生徒1人1台コンピュータの利用に関するガイドライン』を全家庭に配布した。」とのこと。これだけでは、保護者の理解と協力を得ることは困難だと指摘したところ、「教育委員会では、10月に『START～東大和市GIGAスクール構想元年！学校と社会をつなぎ、東大和市の未来を拓く～』をテーマに、“教育の日・東やまと”の開催を予定している。学校の取組の紹介や、有識者による講師講演を通じて、保護者や市民への周知を図っていく。」との答弁がありました。GIGAスクールの効果を向上させるためには、1人1台端末が“当たり前”となるまで、保護者の理解促進や活用方法の共有などの取組を行うべきです。

■タブレット端末は“文房具”の1つ

…今までも学校には、教師の指示通りに生徒がパソコンを使う授業や、電子黒板などで資料を示すなど「教具としてのICT機器」はありました。

しかし、1人1台端末となった今、ICT機器は「文房具」の一つとなり、児童・生徒が鉛筆や消しゴムなどと同じように必要に応じて自由に使用し、授業を受けるようになり、それこそがGIGAスクール構想の根底にある理念だと言われています。

…また、子ども達にはデジタル社会におけるモラルを身に付けさせるために、“情報モラル教育”が必要と言われていますが、世界的には『安全に、責任を持って、互いを尊重する』という3つの原則に自らの行動がかなっているかを自ら考える力を育む“デジタル・シティズンシップ教育”が主流になっており、国の中央教育審議会の提案にも盛り込まれました。東大和市には、ぜひ、先んじてこのような取組みも学校の教育の中で取り入れてほしいところです。

…子ども達が大人になった時には、今ある職業が無くなったり、想像していない職業が出来たり、想像以上の変化がグローバル規模で起こる可能性は大です。

文科省が提唱している「何を知っていて何ができるか（知識・技能）」、「知っていること・できることをどのように使うか（思考力・判断力・表現力）」、そして「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう人間性）」という3つの資質、能力を身に付ける学びには、文房具としてのタブレット端末を使いこなすことは有効です。

…授業中、子ども達がタブレット端末を目の前に生き生きと笑顔で使っていることを耳にしますが、それは珍しいからなのか、それとも学ぶことが以前より楽しく興味深くなったからなのか。珍しさの期限は3か月と言われていいますので、まさに2学期からが子どもたちの学びの充実を実現させられるかどうかの分かれ目になります。東大和市の取組が他市からも注目されることを目指すよう、取り組んで欲しいです。



東大和市 市議会議員

和地 ひとみ

市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート。コロナ禍において、駅頭での配布は一時、控えております。

私たちの身近にある市政、市議会。伝えることがスタートだと思います。」

■ 連絡先 和地 ひとみ事務所 HP : <http://www.wachi1103.jp>
✉ wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp 【電話・FAX】 042-516-8546
〒207-0005 東大和市高木3-274-2-102